

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：MF-1000

製品番号(SDS NO)：MF1000-1

供給者情報詳細

供給者：株式会社ミスミ

住所：東京都文京区後楽二丁目五番一号 飯田橋ファーストビル

電話番号：03-5805-7050

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体：区分外

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性：区分1

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分1

皮膚感作性：区分1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分2

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分2

環境有害性

水性環境有害性（急性）：区分3

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

臓器の障害のおそれ

水生生物に有害

注意書き

安全対策

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

環境への放出を避けること。

熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。ー禁煙。

涼しい所に置き、日光から遮断すること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

- ばく露したとき、又は気分が悪いとき：医師に連絡すること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

貯蔵

- 国際/国/地方の規則に従って保管すること。
- 容器を密閉しておくこと。
- 施錠して保管すること。

廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：

混合物

潤滑油基油：	40～70%
添加剤：	30～60%
水：	1～ 5%

危険有害成分

化学物質管理促進法「第一種指定化学物質」

2-アミノエタノール 3～7%

安衛法「表示対象物質」該当成分

鉱油 40～70%

2-アミノエタノール 3～ 7%

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

鉱油 40～70%

2-アミノエタノール 3～ 7%

4. 応急措置**応急措置の記述****吸入した場合**

- 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 直ちに医師の診断/手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

- 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
- 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

- 清浄な水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

- 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は水で十分洗う。

医師に対する特別な注意事項

(影響/損傷を受ける部位/器官)

- 飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。
- 眼に入ると炎症を起こすことがある。

皮膚に触れると炎症を起こすことがある。
ミスを吸入すると気分が悪くなることもある。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

霧状の強化液・粉末・炭酸ガス・泡が有効である。
初期の火災には、粉末・炭酸ガス消火剤を用いる。
大規模な火災の際には、泡消火器を用いて空気を遮断することが有効である。

不適切な消火剤

棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

特有の危険有害性

燃焼の際は有毒ガス(一酸化炭素等)が生成される可能性がある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。
火災の場合：区域より退避させ、爆発の危険性に応じ、離れた距離から消火すること。
安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護する。
消火作業の際には、可能な限り風上から行う。

消火を行う者の保護

消火作業の際は風上から行き、必ず保護具を着用し皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。
消火作業を行う者は、空気呼吸器等の保護具を着用し、酸素欠乏及び有毒ガスから身を守ること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

消化用器材を準備する。作業の際には消火用保護具を着用する。
大量の場合は、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさぬよう注意する。
海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し(風向き・風速・ガス濃度等)安全を確認する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
少量の場合は、土・砂・おがくず・ウエス等に吸収させ回収する。
大量の場合は、盛り土等で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。

二次災害の防止策

漏洩時には事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に、消化剤を準備する。
こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

ミストの吸入を避けること。

皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。

熱・火花・炎・高温体等との接触を避けると共に、みだりに蒸気を発生させないこと。

注意事項

吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。

容器から取り出す時は、ポンプ等を使用すること。細管を用いて口で吸い上げて(サイホン)してはならない。

室内で取り扱う場合は十分な換気を行う。

換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。

安全取扱注意事項

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

指定数量以上の量を取り扱う場合は、法で定められた基準を満たす製造所・貯蔵所・取扱所で行う。

ハロゲン類・強酸類・アルカリ類・酸化性物質と接触しないよう注意すること。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

[鉱油]

日本産業衛生学会 3mg/m³(2009) (鉱油ミストとして)ACGIH(2009) TWA :5mg/m³(I) (鉱油ミストとして)

[2-アミノエタノール]

日本産業衛生学会 3ppm; 7.5mg/m³(1965)

ACGIH(1985) TWA : 3ppm

STEEL: 6ppm(眼及び皮膚刺激)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

通常必要ではないが必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。

手の保護具

長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。

眼の保護具

飛沫が飛ぶ場合は保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

長期間に亘り取り扱う場合又は濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する。

衛生対策

濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状態

形状：液体

色：褐色

臭い：微臭

pH：8.7 @5%

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：知見なし

引火点：なし

爆発特性：引火又は爆発範囲：データなし。

比重/密度：0.94g/cm³ @15°C

溶解度

水に対する溶解度：任意の割合で溶解

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。

混触危険物質

強酸、酸化性物質、アルカリ類、ハロゲン類

危険有害な分解生成物

燃焼の際は有毒ガス(一酸化炭素等)が生成する可能性がある。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

経口：ラットLD50 5000mg/kg以上(鉱油)

ラットLD50 3320mg/kg (ACGIH 7th, 2001)(2-アミノエタノール)

急性毒性(経皮)

経皮：ラットLD50 5000mg/kg以上(鉱油)

ラットLD50 1000mg/kg (ACGIH 7th, 2001)(2-アミノエタノール)

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

[2-アミノエタノール]

動物試験 腐食性 (CERIハザードデータ集 2001-41、2002et al)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[2-アミノエタノール]

ラット 腐食性 (CERIハザードデータ集 2001-41、2002et al)

呼吸器感受性

有用な情報なし。

皮膚感受性

Cat.1;CERIハザードデータ集, 2001(2-アミノエタノール)

生殖細胞変異原性

広範囲な変異原性試験(in vivo及びin vitro)が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する(鉱油)

催奇形性データなし

発がん性

IARC-Gr.3:ヒトに対する発がん性については分類できない(鉱油)

ACGIH-A4(2009):ヒト発がん因子として分類できない(鉱油)

生殖毒性

ラットによる発育毒性及び生殖毒性試験から得られた知見により、これら毒性を示す結果は得られていない(鉱油)

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

2-アミノエタノール 神経系、肝臓 (CERIハザードデータ集、2002)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

2-アミノエタノール 神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器 (CERIハザードデータ集、2002)

吸引性呼吸器有害性

有用な情報なし。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性(急性)

[2-アミノエタノール]

藻類(セリナストラム) ErC50=2.5mg/L/72hr (環境省、1996)

残留性・分解性

[2-アミノエタノール]

BODによる分解度:83%(既存化学物質安全性点検データ)

土壤中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事許可を受けた産業廃棄物処理業者、地方公共団体がその処理を行っている場合には委託して処理する。

投棄禁止。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号に該当しない

船舶安全法:非危険物(個別運送及びバラ積み運送に於いて)

航空法:非危険物

特別の安全対策

容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車両に標識を掲げる。またこの場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類を含む)

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

名称表示危険/有害物(第57条)

鉱油、2-アミノエタノール

名称通知危険/有害物(第57条の2)

鉱油、2-アミノエタノール

化学物質管理促進(PRTR)法

第一種指定化学物質

2-アミノエタノール

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

2-アミノエタノール

水質汚濁防止法

1日当たり平均的排水量50m³以上の特定事業場に適用される排水基準生活環境項目

鉱油

ノルマルヘキサン抽出物質含有量: C 5mg-鉱油類/liter

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2014 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2014 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。